

小島地区ふれあいセンターだより

令和6年3月 第405号 運営委員会発行

愛宕3丁目10-2 電話826-7703



3月の行事予定

※毎週月曜日は休所日です。

開催日	行事名	
1日(金)	子育て教室	午前10時～11時30分
5日(火)	小島地区ふれあいセンター運営委員会	午前10時～11時
6日(水)	すこやか運動教室(生涯元気事業)	午前10時～12時
8日(金)	愛宕3丁目自治会給食会	
12日(火)	小島中学校区青少年育成協議会	
13日(水)	小島愛宕地区老人連合会定例会議	午前10時～11時
23日(土)	小島地区民生委員児童委員協議会定例会	午前10時30分～
26日(火)	小島地区連合自治会連絡会議	
27日(水)	すこやか運動教室(生涯元気事業)	午前10時～12時

「ひな祭り」について

「ひな祭り」は、雛人形を飾り、ちらし寿司やハマグリのお吸い物を食べて、女の子の健やかな成長を願う伝統行事です。その起源は、中国の五節句の一つで、厄払いや邪気祓いを行う風習がある「上巳の節句」が始まりとされています。

「上巳の節句」が、平安時代に貴族の間に広まり、「雛あそび」や、紙人形を川に流して厄除けをする「流し雛」が合わさったものが、現在のひな祭りの由来だと言われています。「小島地区ふれあいセンター」では、2月上旬から桃の節句まで1階ロビーに、ひな壇を飾っています。

又、「小島地区ふれあいセンター」では、2月2日(金)に、小島地区「子育て教室」が開催されました。この日の取り組みは、「おひな様を作ろう」でした。

参加した皆さんは、おひな様かざり作りを楽しみました。



ふれあい俳壇

遺髮碑を仰ぐ山茶花散り急ぐ 辻原晚夏

紅梅や由来の饅頭家苞に 永福倫子

春風やレトロドレスで闊歩して 大久保俊子

寒鴉生涯カア―で事足りる 許斐洋子

夜の更けて磨ぎ澄まれし冬三日月 園田洋子

暖房の風にゆらめく佛の灯 田中怜子

寒禽やジャワの血筋のザボンの木 田原より子

菜の花の黄み点々と潮匂ふ 立木由比浪

彦山にかかる雲なし初詣 朝長美智子

長坂は七十三段淑気満つ 西史紀

榎も楠も伸びれば切らる冬の虹 松永美記子

分け入るや吾も椿の一樹なり 村川雅代

幼子の片言愛し冬木の芽 山本松子

死すことも棄教も難し絵踏の日 篠先四十三

※ふれあい俳壇は、小島地区ふれあいセンターで活動されている
グループ(若芽の会・湾長崎支部岬会)の皆さんの作品です。

長崎雑話(6) 竹方其

伊藤小左衛門事件(四)

この時、福岡藩主 黒田忠之は300余艘の船、1万の兵を率いて出陣した。小左衛門は同じ博多の御用商人 大賀宗伯と共に軍に従った。長崎ではポルトガル船を焼き払う方法を取ることにとなり、そのための大量の焼き草を必要とした。佐賀藩は領地が近く確保も容易であったが、福岡藩は領地も遠く、ままたらなかつたが、小左衛門と宗伯は、稲佐にある家を買集め、一夜のうちに屋根に使っている藁をかき集めて焼き草を調達した。結局、ポルトガル船とは穏便に話がつき、速やかに帰帆した。黒田忠之は、その功績を讃え、家紋入りの陣羽織と50人扶持を与えた。こうして小左衛門は確かな地位を確立していった。小左衛門は五島町に邸宅を構え、その他にも船津町に別宅、水の浦には別荘があり、天井にはガラスで水槽を作り、金魚を泳がせ、その贅を尽した作りを見るものを驚かせていた。小左衛門は長男 甚十郎を博多に置き、自身は二男 市三郎と共に五島町に支店を置き、廻船その他、商法上の采配を振るった。当時、長崎では深刻な米不足により、長崎奉行は、その対策を小左衛門に命じ、小左衛門は東北からの買付けを行い、奉行の信頼を得て、糸割賦商人ともなり蓄財を進めた。『長崎オランダ商館日記』によると、「小左衛門は銀7千貫以上の資産を持つ豪商」だと記されている。当時の「豪商」とは、銀1千貫以上の持ち主をいうが、小左衛門がいかに桁外れの資産家だったかが窺えられる。しかし、繁栄を誇った。

○袋橋つづき

秋も過ぎた頃に「牡蠣」の本場名産地 広島から、寒い時期だけ営業にやって来ていた様です。

何時の頃から、長崎の人に経営者が代わり、年中係留されるようになりましした。

寒い時には「かき料理」を中心に、その他の季節には「会席料理」等を供していました。

しかし、昭和30年頃、長崎地方を襲った台風の影響で洪水が起き、役所から災害防止の勧告があり「かき船」は、永久に姿を消してしまいました。

○ぼんた君 (平成4年)

鯨のせなか、子河童のぼんた君、「鯨見よ夕日は縦に真半分」孤音(コオン)、清水崑の俳号。

○第12橋 (常盤橋) 元紺屋町 元々は「古川橋」 サンアウグスチン教会跡

延宝7年(1679)唐商魏之琰(キシエン)氏架橋、もと廊橋であった。享和3年(1803)官費で再建。明治45年(1912)鉄筋コンクリートに架け替え。

平成13年道幅拡張により新設架橋。

☆昭和20年、原爆落下時の当初の目標地点。実際は雲に覆われ、目標地点が確認できず、3.4km北方の浦上の住宅・別荘地へ落下される。

○第13橋 (榎津橋) 材木町 元は木廊橋。寛文6年(1666)石橋となる。

崇福寺大檀越の何高材が架橋したことは、旧記には記載されていない。130年後寛政7年洪水に流され、石橋で再架橋。

明治34年(1901)4月に改築、「賑橋」と改称された。昭和3年鉄筋コンクリート造となる。

○第14橋 (萬橋) 万屋町 延宝6年(1678)京都の金屋貴右衛門が贖罪のため石橋を架けたとされる。(大正4年鉄桁橋、昭和46年コンクリート造となる) 現在の橋は平成14年(2002)に架け替

えられたものです。

伊藤小左衛門事件 (三)

寛永鎖国によって全く海を閉ざされ、かつ、交易上に種々の制限が加えられたことは、商客にとって大なる苦痛であった。仕方なく、彼らは国禁を犯さざるを得ない状況に追い込まれたのである。

さて、伊藤小左衛門事件について見ていこう。

博多は「商人の町」といわれ、特に豊臣秀吉の時代には、紙屋宗湛や嶋井宗室など大商人が輩出して博多は大繁盛していた。その当時の大商人は、殆どが貿易商でした。例えば、東南アジアの日常雑器が、その色合いや形の面白さから、茶器として珍重され、大変な高値で取引され、貿易はとにかく利ざやが大きかった。

初代 伊藤小左衛門吉次は、長崎の豪商末次宗徳の娘を娶り、その間の子が、二代目 伊藤小左衛門吉直である。小左衛門は、若い時から商才にたけ、持船20隻、各港に出店を置いて商売に精を出し、ことに長崎の出店を舞台に、長崎警備にあたる黒田家を支え、長崎警備に必要な物資を調達したりしていた。

たまたま正保4年(1647)6月、ポルトガル船2隻が長崎に入港した。イスパニアから独立したことから、再度、通商を求めるとの来航であった。

幕府は長崎奉行に、福岡、

佐賀の両藩に長崎港を厳重に警備することを命じた。



伊藤小左衛門



〈新着図書のご案内〉

	書 籍 名	著 者 名	出 版 社
一 般 図 書	リカバリー・カバヒコ	青山 美智子	光文社
	緊立ち	乃南 アサ	文藝春秋
	おとなの思考	外山 滋比古	リベラル社
	人情ヨーロッパ	たかの てるこ	幻冬舎
	睡眠の科学知識	—	ニュートンプレス
	ライフプランから考えるお金の増やし方	大竹 のり子	ナツメ社
	笠置シヅ子その言葉と人生	四條 たか子	宝島社
	取次屋栄三	岡本 さとる	祥伝社
	あなたが誰かを殺した	東野 圭吾	講談社
	窓ぎわのトットちゃん 続	黒柳 徹子	講談社
	父子(おやこ)の峠	辻堂 魁	祥伝社
	天地の螢	辻堂 魁	祥伝社
	冬の風鈴	辻堂 魁	祥伝社
	ぼけの壁	和田 秀樹	幻冬舎
	はたらかないで、たらふく食べたい	栗原 康	筑摩書房
	わけあり円十郎江戸暦	鳥羽 亮	PHP 研究所
	長崎県全俳人作品集 第7集	長崎県俳人会	長崎県俳人会
	スピノザの診察室	夏川 草介	水鈴社
	夢幻	曾野 綾子	河出書房新社
かすり傷も痛かった	箕輪 厚介	幻冬舎	
児 童 図 書	あなたが守るあなたの心・あなたのからだ	森田 ゆり	童話館出版
	ネコはとってもいそがしい	吉野 万里子	くもん出版
	やまをとぶ	きくち ちき	岩波書店
	さようなら、捨て犬・未来	今西 乃子	岩崎書店
	ムーミンとロールの冬	トーベ・ヤンソン	徳間書店
	わたしは地下鉄です	キム ヒョウン	岩崎書店
	上杉謙信	講談社	講談社
	ふゆのあとにははるがきます	石井 睦美	アリス館
	じかんをまもれなかったクマのはなし	ジャン=リュック・フロマンクル	河出書房新社
	実験で探ろう！光のひみつ	山崎 詩郎	岩崎書店